

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2174000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地1		
自己評価作成日	平成26年6月20日	評価結果市町村受理日	平成26年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171000454-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171000454-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人としての意識を持ってもらい、日々の生活の中で生き甲斐を持って楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな支援ができるよう取り組んでいる。  
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望に沿った、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医院と医師宅に隣接し、利用者の安心な医療を、24時間・365日、切れ目のない支援をしている。さらに法人は、複数の福祉事業を運営し、地域の社会資源として、存在感を高めている。また、災害対策でも、地域との協力体制を築いている。管理者や職員は、利用者の自立を支え、見守り、安心で笑顔のある暮らしを提供している。そして、地域とつながり、これまでの馴染みの関係を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、福祉・介護の重要な役割を果たし、地域社会に貢献するという意識を持ち、利用者のそれまでの人間関係や地域のつながりを大切に、穏やかに過ごしていただけよう事業所理念のづくり、実践している。	管理者・職員は、日々の生活やケアの基本を振り返りながら、理念の意義を確認している。利用者が、これまで培ってきた人間関係や地域とのつながりを大切に、その人らしく、穏やかな生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に方の協力もあり、春・秋祭りでの神楽の実演・幼稚園の鼓笛や盆踊りの会場の提供、中高生の職場体験など、地域と日常的に交流できるよう支援している。	事業所前の庭を、盆踊りや祭りの会場に提供し、地域の人達と触れ合っている。また、地域交流の場として、中高生やボランティアも、頻りに訪れている。併設の喫茶コーナーを開放する計画がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談・質問などされた場合は、理解していただけよう説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やその家族、市の職員、自治会長などと定期的に意見交換や現状報告をして、アドバイスや提案をしていただき、サービス向上に活かしている。	会議では、運営や利用者の現状、重度化対応等を報告し、意見を交わして。出席者から、事業所と地域との関わり方や広報活動の推進等で意見・提案があり、運営やサービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れや地域包括センターから事業者訪問があり、意見交換を行うなど、協力関係を築き取り組んでいる。また、日常的に市の高齢福祉課等に相談したり、アドバイスを受たりして、連携を深めている。	定期的に、地域包括支援センター職員の訪問があり、意見を交換している。市の介護相談員からは、その場で、気づきを伝えてもらっている。高齢福祉課とも、困難事例を相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方が危険な行為をとったりして、やむを得ない場合には、家族の同意を得て行うこともあるが、できる限り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束の対象となる具体的な行為について学習し、理解をしている。抑圧的な言葉を使ったり、言葉をさえぎらないよう、確認し合い、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会などに参加する機会を設け、全職員が理解し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム「コスモス苑赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する制度について、具体的にそれを活用できるような支援を行っているが、研修等に参加するなど、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に担当のケアマネ、施設の責任者等が十分な説明をして、理解し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にコミュニケーションをはかり、利用者や家族の不満、苦情に耳を傾けるように努めている。又、運営推進会議や毎月の介護相談員の受け入れにより、外部者へ意見や要望を言う機会を設け、それを運営に反映させている。	家族の面会時に、気軽に話せる関係づくりに努めている。職員の仕事の大変さや、感謝の気持ちが寄せられている。職員の定着を促す提案や広報活動の現状を話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例のケア会議で職員の意見、提案など良いと思われたことは聞き入れている。また、責任者会議などでも理事長、施設長が意見を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。	ケア会議で、職員の気づきや意見、提案等を検討している。設備の改修などの意見もあり、重要度の高いものから、責任者会議で評価し、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための支援を行っている。また、昇給や資格手当での支給等により、向上心をもって働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じ、計画に基づいて定期的に外部研修を受けている。また、施設内においても、新人研修やテーマ毎の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入しており、協議会を通じて研修に参加したり、同業者との情報交換等を行っているが、他施設との相互訪問等をもっと積極的に行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活されてきたことを理解し、訴えを聞いたり、接し方に注意し、信頼関係が持てるよう頑張っている。 本人の困っていること、不安なこと等に耳を傾け、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の心配される気持ちを理解し、電話連絡をしたり、また、苑便り、担当者からの個人便りなどを通じて状況を報告し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネなどの細やかな話し合いなどで、必要としている支援を見極め実践している。 早い段階でサービス計画を作成し、必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の気持ちを理解し、安心できる相手であるよう努力している。 本人様の自主性を尊重しながらも人生の先輩として尊重の心で接し、教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあれば家族の方に連絡して聞いたり、又、家族の方からの意見相談など聞き、利用者の方が安心して生活できるよう、よい関係でいられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望される店や場所へ行っている。 家族の方を通じ馴染みの方にも来て頂いたり、会いに行ったりできるよう働きかけている。	近所の知り合いが、気楽に立ち寄り、軒下の椅子でゆったりと会話をしている。馴染みの寺や神社へは、散歩をかねて出かけ、買い物なども利用者の希望の店へ出かけて 関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士良い関係が保てるよう、職員が働きかけている。コミュニケーションのとれない利用者の方には、常に声かけも行い、支援している。レク活動など皆様が一緒にできることを考え行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもご家族の方より相談等があればそれに応じたり、現在の状態をお聞きしたりしている。退所された家族にもその後の様子伺いの手紙など出している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションのなかで利用者様の思いや、意向などを汲み取り、記録にとどめ、実現可能なことは、できる限り希望に添えるよう対応している。	日々の生活の中で、問いかけたり、時々発言から思いや意向を把握している。「家に帰りたい」は、皆の願いであるが、気持ちに寄り添い、受容しながら、安心して暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家で使用されていた物などを持ってきてもらい、心休まる環境づくりに努めている。日常的な会話や利用者様の方がどう生活されてきたか知ることの良い環境づくりができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング、バイタルチェックなど、一人ひとりの方の状態を知り、その日の支援を行っている。生活状態、健康、心身の状態の観察は怠らないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアの一環として、ケアマネ、職員全員が利用者様のニーズを出し合い、本人に適した介護ができるようモニタリングし、ケアプランを作成している。	介護計画の作成や見直しの際は、本人・家族から、意向を聴いている。全職員でアセスメントを行い、意見やニーズを出し合い、自分らしく、よりよく暮らせるよう、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録が利用者様の状態を知る上で必要であり、職員間で共有できている。 利用者様の日々の記録が介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間を決めての入所などもあり、本人、家族の方のニーズに対応している。		

岐阜県 グループホーム「コスモス苑赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、教育機関等と協力しながら支援してもらっている。また、ボランティアには頻繁に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によりほとんどの利用者の方が、本医院を利用しているが、専門的な治療が必要な場合は他の医療機関も受診している。家族、本人の希望があれば、他の医療機関へ受診のため送迎もしている。	本人・家族の希望を確認し、法人の医師を、かかりつけ医としている。医院と医師宅が、ホームに隣接しており、夜間も含め、随時、診察ができています。個々の状態に応じ、他機関への受診送迎も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面に問題があれば、すぐ連絡して、医師の受診を受けられるよう対応している。体調に変化があれば施設内の看護師に伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換し、対応している。サマリー、医師の紹介状などから利用者様の状態を知ってもらい、安心して治療できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される時に家族の意見・希望を聞き、容態が悪くなったときにも、どうすべきか、再三家族の方と話し合いをし、医師、看護師、介護職員が連携し、意向に沿った支援をしている。	契約時に、重度化、終末期に向けて、家族の意向や事業所での対応を話し合っている。状況の変化に合わせて、その都度、医師から家族に説明し、関係者で方針を共有しながら支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、急変や事故発生時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署職員の指導で、避難訓練を実施しており、災害時の避難方法、夜間の対応などを確認している。また、自治会にも訓練に参加してもらい、近隣の人にも災害時の協力をお願いしている。	自治会員が避難訓練に参加し、利用者の屋外誘導や見守りを、職員と一緒に訓練をしている。今後も、連絡網を整備し、近隣の人々とも協力体制の確立を検討している。非常用の備蓄は確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者の方を理解し、声かけや接し方など注意し、人格を尊重した対応をするよう努めている。	怒りやすく感情の不安定な人には、気持ちが落ち着くように、対応をしている。行動や心理症状の具体的な事例を検討し、一人ひとりの自尊心を損ねない接し方や、言葉かけに努めている。	さらに、一人ひとりの表情や何気ない言動に気づき、プライバシーを損ねない確認と、改善に向けた取り組みに期待をしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう積極的に働きかけるよう心がけ、一日の生活を職員が決めるのではなく、希望があればそれに沿うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応決まっているが、利用者様の体調、希望など理解し、その人のペースにあった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される利用者様には、美容院や買い物など出かけ、おしゃれができるよう支援している。服装など季節に合ったものを身に着けていただけるよう、家族の協力もあり、支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員が利用者様の好みをしっかり把握し、提供している。テーブル拭き、食器の片付けや野菜の皮むきなど、できることは行っている。	利用者の好みや習慣に合わせ、家庭的な食事を作っている。さつま芋のつるの皮むきなどの下準備や、片付けを、職員と共に行っている。食事中は心地よい音楽を聴きながら、落ち着いて、ゆっくり食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと主食計量、主食・副食の形状に配慮し、水分不足になりがちな方には、水分ゼリーを作り、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。入れ歯など夜間は預かり、衛生面に気をつけている。自らできない方には、声かけ介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム「コスモス苑赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、声かけ等により自立に向けた支援を行っている。夜、オムツ使用の利用者様にも日中はトイレで排泄するよう介助している。	個々の排泄チェック表に基づき、声かけ、促しにより、トイレでの排泄につなげている。その結果、排泄リズムを取り戻し、紙パンツから布パンツへ変わるなど、自立度を高めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら献立を工夫したり、適度の運動をするなどして、一人ひとりにあわせた便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めているが、本人の希望や体調に応じて柔軟に対応できるよう努めている。	入浴は、その日の体調や希望に沿って、柔軟に支援をしている。拒否の人は、清拭やシャワー浴に変えているが、ほとんどの人が「風呂好き」で、満足して、ゆったりと入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	元気な方は夜間良く入眠できるよう日中の生活を考え、重度の方は寝たきりにならないよう、水分補給・食事時は離床していただき、一人ひとりの支援を考え行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状態の変化で薬も変わってくるが、処方記録で内容を把握し薬のセット時、服薬時、間違いが無いよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方のできる事を知り、やっていたいたり、張り合いのある生活ができるよう働きかけている。レクリエーション、行事、話しかけなど利用者の方に働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、外気浴、散歩などしている。本人の希望を聞き、家族にも協力してもらいながら、定期的買い物やドライブ等にも出掛けるよう努めている。	日常は、戸外での外気浴を楽しんでいる。希望者で散歩をかねて、寺や神社詣りへ出かけている。季節の花見や買い物、ドライブ等でも外出をしている。	重度者個々の、心身の状態や希望に応じた、外出支援に期待をしたい。その際、家族や地域の協力も得られることが望ましい。



岐阜県 グループホーム「コスモス苑赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金は預かっているが、必要なときは、お渡しし、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が希望すれば、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や絵を飾ったりして、生活感や季節感を取り入れ、心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	共用の間には、季節の花々や絵画、手作り作品等が飾ってある。廊下には、くつろげるソファを置き、その窓越しに、七夕飾りや家並みが見えている。季節感や生活感があり、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が隣に座れるよう席など気を配り、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用されていたもの、大切にしていたもの、家族の写真など持ってきていただき、こ居心地よく過ごしてもらえる居室になるよう工夫している。本人が自ら居室内を好みのもで飾ったりして工夫している方もある。	居室には、孫の写真や自宅で使っていた椅子、衣装入れ、テレビ等を見やすく、使いやすいように配置をしている。日々、馴染みの物にふれながら、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、名札、トイレなどの場所がわかるよう張り紙をしている。障害物を置かず、安全に自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		